ID ^{注1)}	031132	公開レバル ^{注1)}	С	保管形式注意	1) 紙	保管	管場所 ^{注1)}			前回ID		
担 生妻夕	_森 白神山地	発行年月/報告年月 白神山地世界遺産地域の森林生態系保全のためのモニタリング手法の確立と外縁部										
報告書名	☆ 【の総外刊	用との調和を図 櫛石山南斜面に			する研究	報告書	(平成10∕	~14年	2004		2月 💺	
調査機関	月 理接少白	然環境局を東は	と 本の 白 な	保護事務所	————————————————————————————————————	·機関	ケオサー	((有)下北野	資料形		報告書	
調査開始						▲	6月 靠	~ ~	2002		8月 靠	
調査頻度		_		查時期 ^{注2)}	夏	•		_		_		
モニタリング 計画 2012年3月 策定			≘ (区分 ^{注2)}	IB 大区分 ^{注2)} 2 小区分 ^{注2)} (1)							
調査箇所•範囲 ^{注3)}						目的 • 調査手法						
▼ 核心地域												
結果概要(スペースに収まるように入力してください)												
①ヤナダキの沼の黒サンショウウオ及びモリアオガエルの産卵数 ヤナダキの沼のクロサンショウウオ・モリアオガェルの産卵数は、予想したより少なく、青森県の他産卵地と比較して小規模である。ヤナダキの沢周辺にいくつか産卵地があるものと予想される。周囲の森林が現状のまま維持されれば、ヤナダキの沼で今後も同程度の産卵数を維持していくものと思われる。②櫛石山南斜面のラインセンサスによるタゴガエルの個体数調査 タゴガエルのラインセンサスは、2001年は8月に2回、2002年は7月に1回、8月2回の計5回調査を行った。いずれも、前夜まで障雨があり林床が軽くぬれている状況で、タゴガエルの目撃に好条件であった。しかし、乾燥が続いた時の目撃数のデータを得ることができなかった林床の乾燥が続いた時の目撃数は大変少なくなるので、今後のモニタリングに際しては、この点配慮して考えなければいけない。また、4回が8月で、調査時期として偏ってしまったが、これは、今年度(2002年)6月に調査を行う予定であったが、天候の悪化(暴風注意報)で中止したためである。7月の調査時にも、もう1回行う予定がこの時も天候の悪化で中止せざるを得なかった。2001年7月6日の幼蛙(B)の目撃個体数が0頭であった。これは、今年生まれの幼蛙がまだ解化前で林床にでていないものと推察される。モニタリング対象地付近の産卵地や産卵時期については末調査であるが、八甲田山の同程度の標高では、6月中旬ころが産卵期である。8月の4回の目撃数は、1地点では、平均18.5頭。2地点では、1列100mで10頭前後から20頭位の範囲で、平均14.9頭であった。分布状態としては生息密度が高いと思われる。また、1人での調査では見落としが多いが、熟練した調査協力者と2人で調査できたことで見落としが少なく目撃できたものと推察している。③爬虫類調査 爬虫類については、5種目撃できた。注目されるのは、青森県では記録が少ないタカチホヘビがヤナダキの沢で捕獲できたことである。												
問い合わ	〒036 TEL:01	北地方環境事務 -1411 青 72-85-1 データ)の帰属	森県中津韓2622	経郡西目屋村 FAX:01	大字田代							

- 注1)「「D」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。 注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。 注3) 該当する項目の口をクリックし、チェックを入れる。

